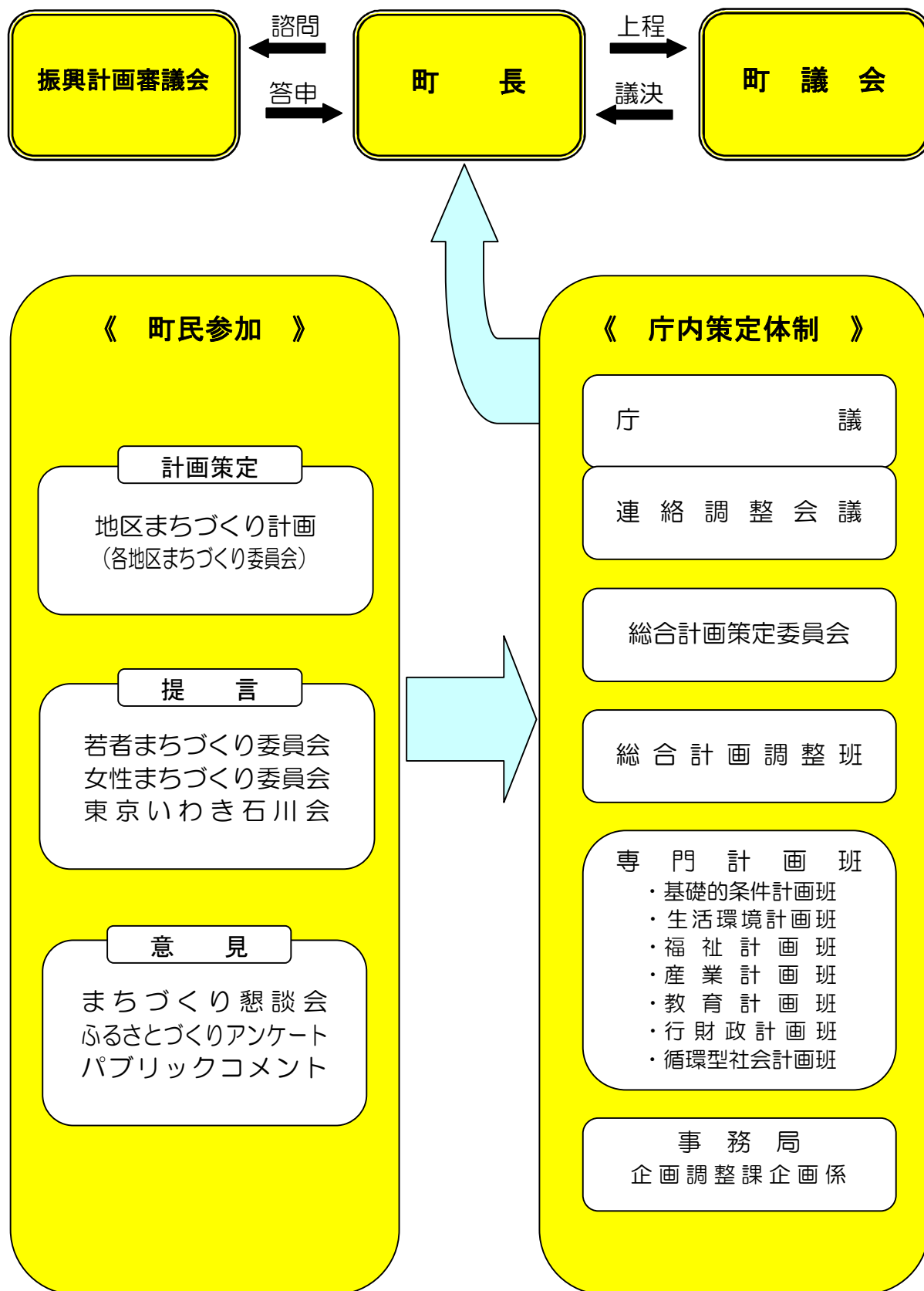


付属資料

1 第5次総合計画策定体系図



2 石川町振興計画審議会への諮問及び答申

20 企 第360号

平成20年10月8日

石川町振興計画審議会

会長 西 川 一 英 様

石川町長 加納武夫

石川町第5次総合計画（案）について（諮問）

石川町振興計画審議会条例（昭和45年条例第22号）第2条の規定に基づき、別冊の「石川町第5次総合計画（案）」について貴審議会の意見を求めます。

平成20年11月7日

石川町長 加納武夫 様

石川町振興計画審議会

会長 西 川 一 英

石川町第5次総合計画（案）について（答申）

平成20年10月8日付け20企第360号で当審議会に諮問のありました「石川町第5次総合計画（案）」について、石川町振興計画審議会条例第2条の規定に基づき、慎重に審議を行なった結果、基本構想で定められた将来像やまちづくりの理念及び基本目標については、おおむね妥当と認めます。

なお、本計画の推進にあたっては、下記意見及び分野別意見に留意し、自立した行財政運営と本町の特色を活かした施策の展開により、住みたくなる町、住んでよかったと思える「石川町」となるよう全力で取り組まれることを強く要望いたします。

記

1. 本計画の将来像「みんなが主役 協働と循環のまち」の実現に向け、今後10年間のまちづくりには、「協働」「循環」を最重要理念として各種施策を展開されたい。
2. 「ひと」「とき」「もの」の循環には、本町の持つ自然資源（桜・温泉・農業・鉱物等）、人的資源（東京いわき石川会を含む。）、文化的資源を総合的、有機的に結び付けることが大切である。そのためには、産業、町民生活、福祉、環境、教育、資源リサイクル等、行政全分野を連関させ、一体的に施策を進められたい。
3. 5つのまちづくりプロジェクトの実施にあたっては、上記2の観点から全庁横断的な実施体制を整え、事業が確実に遂行できるよう努力されたい。
4. 女性まちづくり委員会、若者まちづくり委員会の真摯な議論を経て提示された諸提言には、十分な配慮を払いまちづくりを進められたい。
5. 本計画には、初めて数値目標を設定されたこともあり、第三者による外部評価の体制を早急に整備し、各種施策の実施状況及びその評価を町民に分かりやすく公表されたい。

分野別意見

1 にぎわいと活気のあるまち（産業）

- ・ 石川町の良さ（資産）を町外に向けてアピールすることは、交流拡大の観点からも重要であることから、農産物の石川ブランド化及び特産品の開発、石川町独自の販路拡大、企業誘致等を図るとともに、石川町をもっと多くの人に知ってもらえるよう広報活動を強化されたい。
- ・ 多くの就労機会の創出を図るため、農業、工業、商業、観光等が横断的に一体となった取り組みを進められたい。
- ・ 産業の基盤を強固なものとするために、第一次産業としての農業だけでなく、第二次産業（食品加工）、第三次産業（流通、販売）にも農業者が主体的かつ総合的に係わり、農業を活性化する施策の展開を図られたい。
- ・ 商店街の活性化や地域内循環による消費、購買を促すため、さくらカードが地域通貨として流通する仕組みの確立と、地域通貨による納税が可能な制度を含め検討されたい。
- ・ 中心市街地活性化のため、空き店舗活用は有効な手段と考えられる。しかし空き店舗活用の数値目標の設定が低いことから、高齢者を対象とした活用や新たな商業へのチャレンジなど多面的な活用に対し積極的な支援を図られたい。
- ・ これからの産業振興を考える上では、若者の定住促進、後継者育成が重要なことから、都市部や地域内交流により独身男女が出会える場づくりを検討されたい。
- ・ 町民アンケートの町に対する満足度について特に産業面が低いことから、この不満を解消できる施策の展開を図られたい。

2 健やかで人にやさしいまち（保健・福祉・医療）

- ・ 地域医療、救急医療の充実のために、国や県の医療政策の変化に常に目を向け迅速に対応するとともに、町内外の医療機関との連携を積極的に図り、他市町村よりも先んじて「いのち」を守るため、町民に喜ばれる保健施策を実施されたい。
- ・ 医療、介護難民が増加することが懸念されることから、町民が「終（つい）のすみか」として、生きいきと生活できるための在宅医療、在宅介護の支援施策を図られたい。
- ・ 地域医療の充実の一環として、全町民が地域医療の一端を担う町を目指して「応急医療の普及、啓発」を徹底するプログラムを実施し、AED等の適所配備を図られたい。
- ・ 高齢者や小さな子どもたちの尊い命を救うため、医療・福祉ネットワークを整備し、助け合いのまちづくりを進められたい。
- ・ 本町は障がい者福祉の先進地域であった歴史がある。今後も障がい者が地域において健常者と共に生活できる諸施策を推進されたい。

3 豊かな心と文化を育むまち（教育・文化・スポーツ）

- ・ 石川町にある県立石川高校、学法石川高校の両校が、更に魅力ある高等学校となるよう積極的な行政の支援を図られたい。
- ・ 小学校、中学校の統合に際しては、子どもの人数、通学状況等に充分配慮し、児童、生徒、保護者が不具合を被ることが無いよう進めるとともに、学校に対する地域の熱意、情熱、夢を考慮し進められたい。
- ・ 「ふるさといしかわ人づくりプロジェクト」に掲げた、子どもたちにとって「いしかわで育ち、いしかわで学べたこと」が誇りになる教育施策を、確実に展開されたい。

4 安全・安心で快適なまち（生活・環境）

- ・ 中心市街地には医療、金融、交通、教育等の機関が集積されていることから、商業の活性化のみならず、総合的な空間として位置づけ「歩いて楽しいまちづくり」「子どもから高齢者にまで優しいまちづくり」を視点とした中心市街地の活性化計画の立案を図られたい。

- ・ 消防団員の９０％が企業等に雇用されており、日中の出動力低下が懸念されていることから、消防の仕組みについて検討するとともに、消防に対する町民意識の高揚を図られたい。

５ ともに力を合わせてつくるまち（地域自治）

- ・ 地区まちづくり計画のスタートに伴い、各地区公民館が実施拠点となり、果たす役割はより大きくなると思われる。職員サポーター制度などの人的支援や事業遂行のための財政的支援を図られたい。
- ・ 少子高齢化が進む中、地域福祉を始め地域コミュニティのあり方が重要となるが、「町民」と「行政」の役割を明確にし、持続可能な地域自治制度の確立に向けた取り組みを進められたい。
- ・ 地域コミュニティの再生を進める上においては、地域に潜在する人材の活用を図り推進されたい。
- ・ 協働によるまちづくりを進めるうえで、町職員が自ら町民のひとりであることを認識し、地域活動に積極的に参加されたい。

６ 町民の信頼に応えるまち（町民・行政）

- ・ 効率的な行財政運営を進めるためには、行政の無駄をなくすことが必要である。そのためには、職員の意識改革を含め、行政及び議会システムの抜本的改革を、勇気を持って進められたい。
- ・ 厳しい財政状況を鑑みて、効率的な財政運営を進めるため、各種審議会、各種委員会等の人数及び報酬額の見直しを図られたい。
- ・ 効率的な地域自治を進めるために、現在の行政区のあり方について検討されたい。
- ・ 各種計画等の策定にあたっては、町民主役の協働によるまちづくりを推進する観点から、町民に分かりやすい表現に努められたい。また、実施にあたっては、町民の積極的な参加を促すため、情報提供の工夫に努められたい。
- ・ 庁舎の検討については、国・県の広域的な地方自治政策の動向を見極めながら慎重に進められたい。

石川町振興計画審議会委員名簿

（敬称略、区分毎順不同）

役職名	氏 名	所属団体等
会 長	西 川 一 英	学識経験者
副会長	渡 邊 忠 栄	学識経験者
委 員	相 楽 一 重	関係団体等（石川町商工会副会長）
委 員	水 野 光 成	関係団体等（ＪＡあぶくま石川農業協同組合常務理事）
委 員	野 崎 良 子	関係団体等（石川町文化協会事務局長）
委 員	吉 田 節 子	関係団体等（石川町婦人会連絡協議会会長）
委 員	瀬 谷 浩 宣	関係団体等（いわき石川青年会議所理事長）
委 員	深 谷 恒 夫	一般町民（公募委員）
委 員	添 田 好 史	一般町民（公募委員）
委 員	添 田 一 文	一般町民（公募委員）
委 員	斎 藤 英 幸	一般町民（選任委員）
委 員	山 口 一 雄	一般町民（選任委員）
委 員	添 田 京 子	一般町民（選任委員）
委 員	鈴 木 后 世	一般町民（選任委員）
委 員	酒 井 秀 樹	一般町民（選任委員）

3 若者まちづくり委員会提言書

石川町第5次総合計画の策定にあたり「若者まちづくり委員会」は、「協働で築く地域循環型社会の構築」を念頭におきながら、「いしかわ」らしさを模索しつつ、我が町「いしかわ」が目指すべき姿（構築すべき事柄、保全すべき事柄）などについて検討しました。

私たち「若者まちづくり委員会」は、石川町第5次総合計画策定にあたり、若者の視点あるいは若者の実感などを通して、現在の我が町をどのように感じ、どのような魅力を発揮出来るのか、また、向後10年を見通し、我が町の未来像について様々な議論を重ねてまいりました。「協働」「循環型社会」には様々な解釈や理解が出来ることと思いますが、「若者まちづくり委員会」では町民のみなさんが参加し、関わりを持つことが出来る事柄には「協働」の概念を、人との関わりをとおして様々な良い効果・影響が波及する事柄には「循環」という概念をあてはめながら提言作成の作業を進めてまいりました。

私たち「若者まちづくり委員会」は、3つのグループにより、それぞれ提言作成のワークグループを立ち上げて議論を進めてまいりました。それぞれのグループがそれぞれの視点で3つの提言をまとめあげ

「めんごいいしかわ」

「あいさつの和・輪（みんなが家族）」

「桜と四季の彩りでおもてなし」

としました。

これらの提言を活かし、第5次総合計画の基本テーマである「協働で築く地域循環型社会の構築」の実現に向け、町民のみなさんが自主的・自発的にまちづくりに参加できる仕組みの構築を期待します。

併せて、私たちの「いしかわ」において潜在的に有する地域の固有の要素や特徴、歴史的・社会的な地域の財産を活かした「地域づくり」を核に、町民と行政の協働による「まちづくり」の推進を期待し、私たち「若者まちづくり委員会」の提言といたします。

平成19年11月13日

石川町長 加納 武夫 様

若者まちづくり委員会

若者まちづくり委員会名簿

グループA	グループB	グループC
中 澤 裕 一	高 原 久 雄	中 島 徹
桑 沢 裕 宗	吉 田 英 弘	芳 賀 誠
小 木 秀 治	酒 井 理 江	円 谷 龍 一
志 賀 好	遠 藤 崇 典	鎌 田 慧
吉 田 由加利	西 牧 恵	瀬 谷 裕 美
		山 田 英 司
事務局 大 竹 実		

若者まちづくり委員会提言までの活動

1. 第1回 平成19年6月19日（火）
（委嘱状交付式・第5次総合計画説明会・KJ法によるテーマの拾い出し）
2. 第2回 平成19年7月11日（水）
（KJ法により、石川町の特徴のクローズアップ）
3. 第3回 平成19年8月2日（木）
（懇親意見交換会）
4. 第4回 平成19年8月28日（火）
（3班により提言に向けてのアイディア交換）
5. 第5回 平成19年9月24日（月）
（タウンウォッチング：和久鉦山跡⇒小和清水⇒レークサイド遊歩道⇒中田区各地）
6. 第6回 平成19年10月2日（火）
（提言に向けての方向性の確認）
7. 第7回 平成19年10月18日（木）
（提言策定最終会議）
8. 第8回 平成19年11月13日（火）
（町長宛 提言書提出）

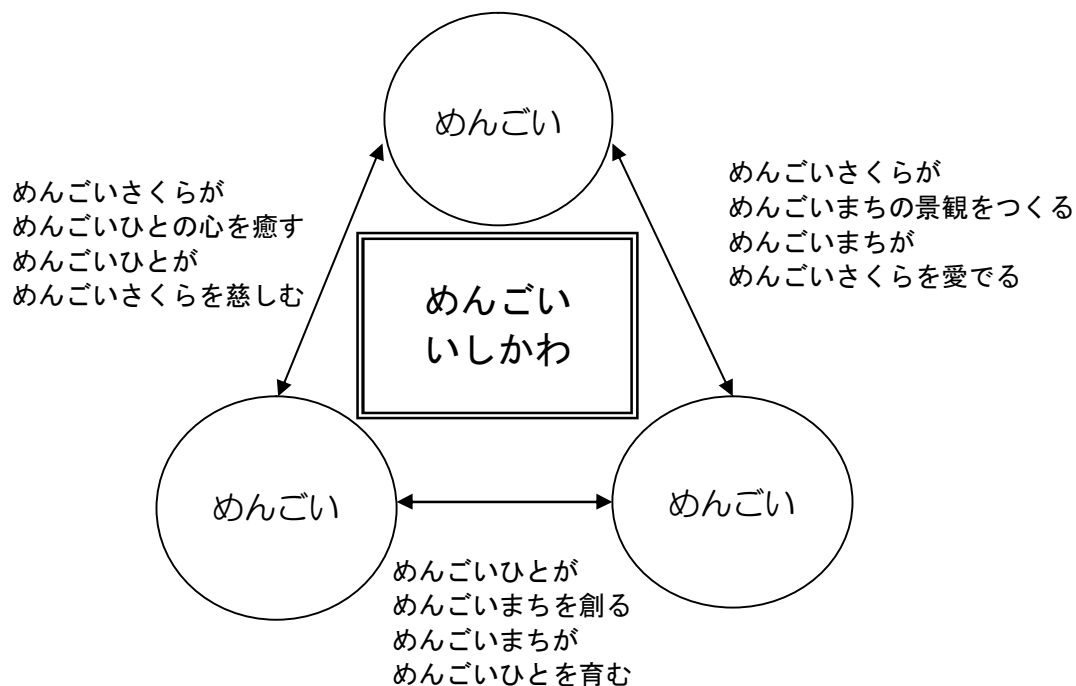
グループAの提言 『めんごいいしかわ』

キーワード：「めんごいさくら」、「めんごいまち」、「めんごいひと」

「めんごいさくら」「めんごいひと」「めんごいまち」が「めんごいいしかわ」を形成する基本的要素として、町民のみなさんそれぞれが「いしかわ」を「めんごく」するための小さな行動と、「協働」による社会の充実を具現化できる総合計画の策定を期待します。

また、「めんごいいしかわ」を実現するための要素として、慣れ親しんでいる食の再発見、様々な技術やこだわりによる産業の再評価など、身のまわりに存在する「めんごい」ものに気が付くことが、「めんごいいしかわ」再発見に繋がる第一歩と考えています。

また、「めんごいいしかわ」を構成するものとして、小さなコミュニティでの伝統の継承や、広域的に行なわれる様々な交流（文化・教育・産業など）、あるいは高い技術やこだわりにより生産される農産物の味わいなどをおして、明るく笑って語り合える石川町の実現を希望し提言いたします。



「めんごいいしかわ」再発見

- | | |
|-------------|------------------------------|
| ①めつけた | (見つけた)【いしかわを注目してもらおう・再発見】 |
| ②んまい | (おいしい・上手)【食・技】 |
| ③ごつつおあつつお | (ごちそうがあるよ)【名物・田舎料理】 |
| ④いぢげえにあつつお | (たくさんあるよ) |
| ⑤いっぺえあづまれ | (たくさん集まれ)【楽しいイベント・まつり・交流・人口】 |
| ⑥しよっちゅうわらって | (いつも笑って)【明るいあいさつ・元気な子ども】 |
| ⑦かだってみっぺ | (語り合いましょう)【みんなでまちづくり】 |
| ⑧わがまちいしかわ | |

グループBの提言 『あいさつのWa』

キーワード：「みんなが家族」「みんながレギュラー」

明るく元気な石川町は、楽しく、気さくな人たちが創り上げます。

あいさつは、一人ひとりの自発的な行動により行われるものであり、前述の諸問題が現在よりさらに進行したとしても、あいさつを通した明るい町を築き上げることはできると考えています。

「あいさつのWa」は、『輪』・『和』をイメージしています。あいさつを通して一人ひとりの心が通じ合い「輪」となり、その輪が人々にまるで家族のような「和（なごみ）」の気持ちをもたらします。

みんなの心が「和」で満たされたとき、石川町を訪れた人が「Wa」っと驚くような「明るく元気な町」になっていると確信しています。そして、これが実現できたとき、「みんながまちづくりのレギュラー」となっているのです。



「あいさつ」

石川町を大きな工事などによって装飾（都市化）するのではなく、日常生活の中に身近に存在するあいさつを当たり前に行えば、石川町はさらに元気な町になります。

あいさつは知人同士だけで行われる特別なものではありません。登下校や通勤、散歩の時、ふとすれ違う人同士もお互い同じふるさとを持つ「石川の人」です。気軽に言葉を交わしても不思議なことではありません。

『挨・拶』は、「推して・迫る」という意味です。あいさつは待っていても返ってはいません。自分から、気持ちの良いあいさつをしてみませんか。



石川町には毎日、未来を担う「石川っ子（小学生、中学生、高校生）」の元気なあいさつが飛び交うあいさつの時間があります。子ども達の無邪気な笑顔で元気にあいさつされると、思わずうれしく思い、心が温まります。

普段子どもたちが、私たちにしてくれるあいさつを町民全体に広げ、定着させることで、元気で楽しく、活力と笑顔にあふれる石川の人になると思います。

まとめ

「ふるさと石川町は、自慢できる町です」と、胸を張って言えることが、町民共通の願いです。町民一人ひとりが、まちづくりの主役となり輝く石川町にしましょう。

《町の特産物はあいさつ》となるよう、石川町の全ての人々に【あいさつ】の種を蒔き、【あいさつ】が根付き、【あいさつ】の花が満開となるまちになることを期待し、私たちのグループの提言といたします。

グループCの提言 『桜と四季の彩りでおもてなし』

キーワード：「桜」「季節ごとの花」「おもてなし」

石川町の「桜」は町民の多くが愛し、誇りを持つもののひとつです。この「桜」は有形で限りのある「生きた」財産でもあります。この「桜」も先人の努力や先見によって現在の見事な景観を誇っているところとなっています。

この「桜」を後世に残す、あるいは、「桜」に対し町民一人ひとりが今以上に関わりを持ち、愛着を持つためにはどうした良いのか？ということについて議論を進めました。また、「桜」以外にも四季折々に石川町を彩る景観やおもてなしについてどんなことが提言できるのかについても議論を重ねました。

- 桜を活かした商品づくりは出来ないか？（例：町内各お菓子屋さんが同一コンセプトの商品を開発し、物産化する。さくら団子、さくらサブレ・・・）
- 桜の幹、桜の葉、桜の花、桜の樹皮などの持つ付加価値に着眼し、視覚で愛でる桜と味覚・嗅覚・触覚に感じる桜の利活用。
- 桜を育てる・増やす：桜を記念樹にして「一人一桜」として、自分の記念桜が思い出と一緒に成長する。
- 四季折々の花：桜（春）、紫陽花（初夏）、ひまわり（盛夏）、コスモス（秋）、銀杏など。
- 銀杏：ギンナンやイチョウの葉、イチョウの樹皮などが利用でき、産業（イチョウの木のままな板など・・・）につながる可能性のあるイチョウで秋の景観を形成する。公園などにイチョウの木があればギンナン拾いに訪れる人も増えると思う。
- 訪れる人に対するおもてなしは「あいさつ」が一番。

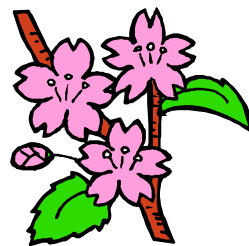
さくらづくしの提案

- ・ 桜餅（さくらの葉（塩漬け）を使用し、さくらの花の抽出液の食紅で着色）
- ・ さくら湯（さくら茶：さくらの花の塩漬け、またはさくらの乾燥花弁を用い紅茶風に・・・）
- ・ さくらの花の砂糖漬け（お茶請け）
- ・ さくら風呂（町内の温泉：さくらの樹皮抽出液とさくらの花びらを浮かべて期間限定のサービス）
- ・ さくらのチップ（燻製用・染物用：伐採や枝打ちによる材料を活用）
- ・ さくらのお酒（さくらの花、さくらの葉、さくらの木の樽などを用い独創的なもの）

以上の検討結果を踏まえ、次のとおり第5次総合計画において活用していただきますよう期待を込めて提言いたします。

1. 桜を活かし、保全するまちづくり（「一人一桜」で愛着のある桜を・・・）
2. 彩りのある四季につつまれたまちづくり（総合運動公園の植樹など）
3. 石川ならではの桜を活かした食をはじめとする物産の開拓（名物の醸成）
4. あいさつによるおもてなしのまちづくり（町内の交流・来訪者との交流）
5. イチョウなどを活用した産業の開拓（食・健康・景観）

4 女性まちづくり委員会提言書



私たち「女性まちづくり委員会」は、石川町第5次総合計画の策定に役立てていただくよう、まちづくりについて女性及び住民の立場から議論を重ねてまいりました。この会議で議論された意見をもとに、「ここに花を～五感で味わう石川町～」をテーマとして、次のようにまとめましたので、ここに提言いたします。

「ここに花を～五感で味わう石川町～」

人口、健康、環境や観光など、さまざまな分野の話題が委員会の中で出されましたが、特に町のシンボル“桜”に関係したことが最も多く話題となりました。このことから、私たち住民のところに桜のような花が咲き、その花が人から人へ循環していくことで、より石川町の良さを味わえることをイメージし、このテーマを設定しました。

五 感

1 【見る・聞く】

(1) 桜

春、石川町に咲き誇る桜は、本当に見ごたえがあります。より多くの観光客に石川町の桜を観て楽しんでもらえるまちづくりを目指します。

提 言

- ① 観光客に分かり易い桜の看板の設置、特に県指定の重要文化財である高田桜の看板を目立つようにすることで、アピールし県内外より多くの人達を呼びこみ、交流人口の増加を図りましょう。
- ② 桜の時期だけでも足湯、駐車場、休み処の設置をし、おもてなしのまちづくりで多くの方を歓迎しましょう。
- ③ 桜を活かした食品（和菓子・洋菓子・ソフトクリーム・そうめん・うどん）の開発を菓子組合や製麺所に依頼したり、さくら染め小物の販売やさくら染め教室を開催したりと、遠くからでも足を運んでくれるような、石川町にしかない個性的なまちづくりをしましょう。また、石川町の歴史と関連した食品の流通により、歴史及び情報を循環させましょう。
- ④ 桜を詠んだ俳句・短歌・川柳・写真等のコンクールを実施し、文化的なまちづくりをしましょう。
- ⑤ 石川町の桜をより全国発信するため、オールシーズンのまちづくりをしましょう。春は花見、夏は桜そうめんによる流しそうめん、秋は桜うどんて芋煮会、冬はイルミネーションと、オールシーズン石川町を売り出しましょう。

石川町に多くの人を訪れるよう、桜を中心として積極的に町をアピールし、尚かつ私たち自らが楽しむことで、町全体の経済の潤い、商工業の発展につながり、元気な石川町となるのではないのでしょうか。

(2) 自然

石川町の豊かな自然を目にし、その中で生活できることは一番の幸せではないでしょうか。この自然を次世代へ残し続けるため、住民一人ひとりが、環境保護に努めるまちづくりを目指します。

提 言

- ① きれいな川を守るため、環境を保護するまちづくりをし、美しい景観を保ちましょう。EM菌（20年前に琉球大学農学部比嘉教授が開発した有用微生物群）は、環境汚染の原因となる米のとぎ汁を利用し、生ゴミを家庭菜園などの肥料にしたり、悪臭緩和や河川浄化の効果が期待できます。各家庭から出る生活雑排水は、出来るだけ汚さない、または浄化してから河川へ戻すような対策を実践していきましょう。
- ② 住民一人ひとりがゴミを減らすよう意識し、自然にやさしい物質の循環社会を望みます。買い物時のマイバック、簡易包装、ゴミのリサイクル分別、洋服などのリサイクル推進のほか、ゴミを減らす工夫についての勉強会から実行してはどうでしょうか。
- ③ 子育ての世代や団塊の世代を中心に、地震の少ない安全な土地であることをPRし、石川町へ移住したくなるような施策で人口の増加を図りましょう。

住民一人ひとりの環境保護の意識により、美しい町を保ちましょう。豊かな自然の中では、鳥や昆虫などの生き物の声がシーズンごとに響き、住む人の心を和ませてくれます。自然豊かなまちづくりは、心も体も元気な人づくりへとつながるでしょう。

(3) 子ども

子どもたちのにぎやかな遊び声は、私たちのこころを和ませ、家庭をにぎやかにしてくれます。多くの子ども達が元気で健やかに育つまちづくりを目指します。

提 言

- ① 小さな子どもが遊べる遊具のある、公園の整備により子どもに安全なまちづくりをつくりましょう。
- ② 児童クラブ、子育てサポート、地区公民館事業（長期の休みに子どもの集まることのできる交流拠点の確保）などの充実により、働きながら安心して子育てが出来る体制を整備しましょう。このような体制や制度を活用し、地域の子育て事業にお年寄りが生き生きと参加することで、世代の交流が図れます。
- ③ 結婚しても経済的な理由で子どもを産まない家庭もあるので、子育て世代の働く場所の確保（既存企業の拡大または企業誘致）をし、経済的な面から少子化対策を行いましょう。
- ④ 石川町の地域特性を生かし、工夫された出会いの場を企画するなど、結婚応援プランを充実させましょう。

- ⑤ 子どもたちの学校生活の充実と学習に適した環境を整えるため、出生数から推測される適正な学校の規模を望みます。また、子どもたちが安全に通学できる通学路の整備や通学手段の整備を望みます。

2【触る・つくる・食べる】

石川町の土地に触れ、風土・気候を活用しながら作物をつくり、加工・販売をし、四季折々においしいものを食べる楽しみのある地産地消のまちづくりを目指します。

提 言

- ① 石川町でつくられた季節の野菜、加工食品（凍み餅、梅干、漬物等）を販売することで、高齢者や農業従事者の長年の智慧を、人から人へ循環させましょう。また、豊富な経験と技術の提供により、特産品を開発しましょう。
- ② 高齢者等の生きがいと健康づくりのため、栽培・加工・販売・消費活動で、心身ともに健康的なまちづくりをしましょう。このことにより、高齢者ばかりでなく、町民すべての活性化につながり、医療費や保険料の抑制にも効果があるのではないのでしょうか。
- ③ 石川町産のものがいつでも買える、いつでも食べさせてくれる、トイレもあり安心して休憩ができるといった場所を、空き店舗や町管理の未使用施設を利用して、地産地消の活動拠点をつくりましょう。町内の食材、町内の人腕で、おいしい家庭的な味を売りに低料金で提供すれば、口コミ等で話題となるのではないのでしょうか。加えて、生産・加工・販売の連絡を密にすることで、処分される野菜等の有効活用にもなるでしょう。
- ④ 町内で行なわれている地産地消の活動に、誰もが楽しくかかわれるような、オープンな地産地消のまちづくりをしましょう。

3【香り】

石川町にはさまざまな香りがあり、どの香りも私たちの生活に潤いを与えてくれます。自然の香りやおいしい匂いの立ち込める、人のぬくもりを感じられるまちづくりを目指します。

提 言

- ① 温泉の香りや湯気がただよう、あたたかなまちづくりをしましょう。温泉の気軽な日帰り入浴をよりPRし、子ども連れの家族、高齢者、誰もが利用しやすい環境をつくりましょう。
- ② ひとのぬくもりが息づくまちづくりをしましょう。高齢者世帯が増えているので、地域全体で声を掛け合い、お互いに助け合うネットワークをつくりましょう。

《石川町の香り》

春・・・桜の香り、土の香り、若葉の香り、まんじゅうを蒸かす香り
 夏・・・水の香り、梅雨の香り、森林のすがすがしい香り、夏野菜の香り、花火の香り
 秋・・・果物の香り、稲の香り、秋祭りの縁日の香り、八槻市の香り、新米の香り
 冬・・・家庭の鍋の香り、お正月の香り
 雪景色の香り、どんと焼きの香り



すべての町民が健康で安心して、石川町で生活できる喜びを味わえるよう、以上の内容が今後のまちづくりに役立つことを期待いたします。

平成 19 年 11 月 26 日

石川町長 加納武夫 様

女性まちづくり委員会

女性まちづくり委員会委員名簿

金 内 奈緒子	瀬 谷 美代子	竹 島 君	深 谷 裕 子
小 林 ヒ サ	関 根 英 子	中 村 直 子	小 池 幸 子
近 内 マリナ	添 田 アキノ	二 瓶 元 子	角 田 祥 子

(事務局 鈴木佳子 曲山孝子)

女性まちづくり委員会 会議経緯

平成 19 年 6 月 19 日 委嘱状交付式・第 1 回女性まちづくり委員会

平成 19 年 7 月 31 日 第 2 回女性まちづくり委員会

平成 19 年 8 月 28 日 第 3 回女性まちづくり委員会

平成 19 年 9 月 21 日 第 4 回女性まちづくり委員会

平成 19 年 10 月 23 日 第 5 回女性まちづくり委員会

5 東京いわき石川会提言書

平成20年8月31日

石川町長 加納武夫 様

東京いわき石川会
会長 川 島 信 治

石川町第5次総合計画に対する提案について

平成20年度東京いわき石川会と石川町役場首脳部との情報交換懇談会開催で、首題の件につきまして、下記のとおり提案いたします。

記

1 石川町の農業再生・活性化に向けて

- ① 石川町産の農林畜産物を活用した特産品の開発
- ② 農林畜産物等の販路の拡大
- ③ 農産物を使った企画イベントの実施
- ④ グリーンツーリズム、二地域居住の推進

2 産業の振興・発展策について

- ① 若者の定着を図るため企業誘致と地元企業の経営体質の強化
- ② 地元企業と受発注対策が取れ、共存できる企業の誘致
- ③ 働く子育て世代の女性を支援するための施策の展開
- ④ 次代を担う若手経営者、幹部候補生を対象とした人材の育成
- ⑤ 産学交流による技術力の向上
- ⑥ 若手人材の確保
- ⑦ (株)夢づくりいしかわとの連携強化

3 観光開発について

- ① 桜まつりの充実（駐車場案内板の設置、案内人の配置、ミス桜コンテスト、桜大使の任命、全国桜公園の造成等）
- ② 温泉地の活性化（広域観光ルートの開発、滞在型温泉の創造）
- ③ 鉱物資料館の建設
- ④ 福島空港を活用した観光・文化・交流の促進

4 福祉、医療、環境対策について

- ① 郡内町村による救急医療病院の開設
- ② (株)夢づくり石川の計画している「まちなかふれあい拠点」の活用
- ③ 医・工連携による福祉医療製品の開発
- ④ 歯科ドック制度の啓発及び強化
- ⑤ 鉱物を活用した岩盤浴の研究

6 石川町議会における経過

開催期日	主 な 内 容
平成 19 年 3 月 8 日	・ 第5次総合計画策定基本方針について ・ 第5次総合計画策定スケジュールについて
平成 19 年 9 月 27 日	・ 第4次総合計画の検証報告について ・ まちづくりアンケートの集計結果について
平成 20 年 8 月 20 日	・ 第5次総合計画の概要について ・ 第5次総合計画基本構想（案）について ・ 地区まちづくり計画について
平成 20 年 9 月 18 日	・ 第5次総合計画基本計画（案）について
平成 20 年 11 月 28 日	・ 第5次総合計画基本構想（案）及び基本計画（案）について
平成 20 年 12 月 4 日	・ 第5次総合計画基本構想議決
平成 20 年 12 月 4 日	・ 第5次総合計画第 1 回実施計画について ・ 公民館の見直しを含めた地域自治の基本的な考え方について
平成 21 年 1 月 15 日	・ 地区公民館の（仮称）自治センター移行について

7 石川町振興計画審議会における経過

回 数	開催期日	主 な 内 容
第 1 回 審 議 会	平成 19 年 7 月 31 日	・ 委員の委嘱 ・ 会長、副会長の選任 ・ 第5次総合計画策定基本方針について ・ 第5次総合計画スケジュールについて ・ 地区まちづくり計画について
第 2 回 審 議 会	平成 19 年 11 月 1 日	・ 石川町の行財政改革について ・ 第4次総合計画の検証について ・ ふるさとづくりアンケートの集計結果について ・ まちづくり計画の実践例について
第 3 回 審 議 会	平成 19 年 12 月 18 日	・ 若者まちづくり委員会・女性まちづくり委員会からの提言について ・ 町長との意見交換の実施

回 数	開催期日	主 な 内 容
審議会視察研修	平成 20 年 7 月 15 日	・ 福島県西会津町（まちづくり基本条例に基づくまちづくりについて等）
第 4 回 審 議 会	平成 20 年 7 月 23 日	・ 石川町第5次総合計画基本構想（案）について ・ まちづくりプロジェクトについて ・ 地区まちづくり計画について
第 5 回 審 議 会	平成 20 年 8 月 8 日	・ 石川町第5次総合計画基本目標（案）のうち「3豊かな心と文化を育むまち」について
審議会視察研修	平成 20 年 8 月 26 日	・ 栃木県茂木町（道の駅「もてぎプラザ」及び堆肥施設「美土里館」を活用した施策について等）
第 6 回 審 議 会	平成 20 年 9 月 12 日	・ 石川町第5次総合計画基本計画（案）のうち「1にぎわいと活気のあるまち」及び「6町民の信頼に応えるまち」について
第 7 回 審 議 会	平成 20 年 9 月 24 日	・ 石川町第5次総合計画基本計画（案）のうち「2健やかで人にやさしいまち」及び「4安全・安心で快適なまち」について
第 8 回 審 議 会	平成 20 年 10 月 8 日	・ 第5次総合計画基本構想（案）及び基本計画（案）の諮問 ・ 各部門別計画の数値目標について ・ まちづくりプロジェクトについて
審 議 会 （審議会招集）	平成 20 年 10 月 20 日	・ 審議会委員による第5次総合計画諮問に対する意見について
審議会小委員会 （審議会招集）	平成 20 年 10 月 24 日	・ 第5次総合計画答申（素案）の検討について
第 9 回 審 議 会	平成 20 年 10 月 31 日	・ 第5次総合計画答申（案）の審議について
第 10 回審議会	平成 20 年 11 月 7 日	・ 第5次総合計画基本構想（案）及び基本計画（案）の答申
第 11 回審議会	平成 20 年 12 月 1 日	・ 第5次総合計画第1回実施計画について

8 各地区まちづくり委員会の開催等

(敬称略)

○ 石川地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年 9月29日 第1回委員会 平成19年10月27日 第2回委員会 平成19年11月21日 第3回委員会 平成19年12月20日 第4回委員会 平成20年 1月24日 第5回委員会 平成20年 2月 4日 町長へ計画書提出
委員会組織	顧問 近内正隆 南條武光 委員長 安倍治男 副委員長 中村幸吉 熊懷武彦 委員 小川範明 有賀四郎 松山秀隆 西牧玉喜 吉田政司 近内行雄 齊藤幸夫 三瓶善孝 鈴木康仁 安藤敬男 溝井恵介 吉田憲一 有我シゲ子 吉見みち子 今井 忠 齊藤 亮 諸岡卓也 川音雅浩 水野文雄 遠藤多一郎 矢内 進 吉田義久 小豆畑元 小松徳夫 吉田 茂 事務局 芳賀正人 三森孝則 秋山晴彦 小川貴久
○ 沢田地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年 9月25日 第1回委員会 平成19年10月16日～10月31日 まちづくりアンケートの実施 平成19年11月 6日 第2回委員会 平成19年11月30日 第3回委員会 平成19年12月20日 第4回委員会 平成20年 2月 5日 第5回委員会 平成20年 3月19日 町長へ計画書提出
委員会組織	委員長 近藤孝男 副委員長 添田廣美 委員 松山昌平 根本常和 佐藤芳伸 星 貴 鈴木信昭 小林富男 高木勝典 高木正仁 郷 徹 郷 義郎 吉田清貞 吉田 隆 アドバイザー 郷 征弘 深谷政勝 婦人会会長 塩田喜美子 婦人会副会長 吉田幸子 荒木幸江 事務局 矢内秀明 郷 貞夫 江尻勝博 岸浪正徳
○ 山橋地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年11月16日 第1回委員会 平成19年11月29日 第2回委員会 平成19年12月19日 第3回委員会 平成20年 2月21日 第4回委員会 平成20年 3月26日 町長へ計画書提出
委員会組織	委員長 矢内市郎右衛門 副委員長 添田啓一 矢内一幸 緑川喜三 委員 渡邊 實 添田勝美 添田七美子 十文字秀男 緑川幸子 大平周一 緑川 裕 小豆畑正信 芳賀タミ 小木芳郎 小木秀治 太楽芳隆 酒井篤彦 酒井正一 小豆畑為重 木戸昭一 小湊美代子 添田春男 橋本栄光 矢内明男 事務局 芳賀真一 鎌田寿美子 矢内忠男 酒井光之

○ 中谷地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年 9月20日 第1回委員会 平成19年10月31日 第2回委員会 平成19年11月18日 第3回委員会（現地視察） 平成19年11月28日 第4回委員会 平成19年12月18日 第5回委員会 平成20年 1月23日 第6回委員会 平成20年 2月29日 第7回委員会 平成20年 3月 5日 町長へ計画書提出
委員会組織	顧問 飯島 裕 委員長 水野勝男 副委員長 藤沢靖彦 委員 緑川重一 西牧雅夫 根本 忠 有賀正泰 有賀直明 根本秀行 矢吹信彦 久野恒雄 石井康夫 小針重一 小湊寿一 小湊 登 塩田正幸 大野芳治 事務局 近内 康 南條武義 永沼重和 矢吹智之

○ 母畑地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年10月19日 第1回委員会 平成19年11月10日・17日・19日 現地調査 平成19年11月22日 第2回委員会 平成19年12月19日 第3回委員会 平成20年 2月 5日 第4回委員会 平成20年 2月22日 第5回委員会 平成20年 3月26日 町へ計画書提出
委員会組織	委員長 平田文男 副委員長 迎 慎 関根正夫 委員 岡部喜一 添田一二 木戸彌吉 関根節子 添田常勝 鈴木一郎 大串秋夫 添田嘉隆 事務局 熊田誠 永沼 悟 林憲夫 福田光雄 塩沢弘則

○ 野木沢地区まちづくり委員会	
開催期日等	平成19年 9月26日 第1回委員会 平成19年10月30日 第2回委員会 平成19年11月29日 第3回委員会 平成19年12月26日 第4回委員会 平成20年 1月24日 第5回委員会 平成20年 2月20日 町長へ計画書提出
委員会組織	顧問 上村善栄 二瓶 匡 中村 進 伊藤弘毅 委員長 瀬川洋幸 副委員長 二瓶義徳 草野 一 関根 功 委員 二平光信 宇佐美善和 中村 弘 岩谷共利 関根正明 事務局 宗形兼徳 円谷美幸 二瓶伸一 鈴木 辰也
	中野部会 顧問 二瓶 匡 部会長 二瓶義徳 副部会長 二平光信 庶務 二瓶伸一 委員 二瓶伸一 木戸久男 円谷泰広 近内繁治 二瓶正市 二瓶将徳 二瓶市之助 近内京子 坂本幸子 佐藤トミ子 高原裕子 近内桂子 瀬川洋幸
	曲木部会 顧問 上村善栄 部会長 草野 一 副部会長 宇佐美善和 庶務 円谷美幸 委員 矢吹義孝 矢吹喜代治 草野伝明 円谷和彦 矢吹重光 吉田正和 円谷美佐江 永山れい子 草野伝男 相田喜市 荻野安子 矢吹寿子 松山重一 芳賀博治 岩谷共利 佐藤晴夫 岩谷光利
	塩沢部会 顧問 中村 進 部会長 関根 功 副部会長 中村 弘 庶務 鈴木辰也 委員 鈴木紘一 曲山勝義 中村幹雄 曲山重徳 曲山国太郎 曲山永幸 曲山謙一 大竹 隆 石森勝彦 有賀正一 添田幸子 有賀美智子 有賀幸子 近内泰一 関根正明

9 ふるさとづくりアンケートの実施

○ 町民アンケートの概要

- ・調査方法：行政区長及び行政区組長による調査票の配布及び回収
- ・対象者：町内に居住する満20歳以上の町民 1,000人
- ・抽出方法：住民基本台帳による行政区別、年齢別、男女別などを考慮した無作為抽出
- ・回答結果：回答者数 814人 回答率 81.4%

○ 企業アンケートの概要

- ・調査方法：郵送による調査票の配布及び回収
- ・対象者：町内に所在する企業及び事業所 60社
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・回答結果：回答社数 41社 回答率 68.3%

○ 小学生アンケートの概要

- ・調査方法：各小学校経由による調査票の配布及び回収
- ・対象者：小学6年生全児童 174人
- ・回答結果：回答者数 173人 回答率 99.4%

○ 中学生アンケートの概要

- ・調査方法：各中学校経由による調査票の配布及び回収
- ・対象者：中学2年生全生徒 196人
- ・回答結果：回答者数 185人 回答率 94.4%

○ 高校生アンケートの概要

- ・調査方法：県立石川高等学校及び学法石川高校経由による調査票の配布及び回収
- ・対象者：高校2年生全生徒（町外生徒を含む。） 442人
- ・回答結果：回答者数 421人 回答率 95.2%

○ 経過

- 平成19年4月中旬 各種アンケート調査票の配布
- 平成19年5月下旬 各種アンケート回収
- 平成19年9月上旬 調査結果の取りまとめ（報告、町議会・振興計画審議会）
- 平成19年9月下旬 調査結果概要の公表（5総だより、ホームページ）

10 パブリックコメントの実施

○ 内容

「石川町第5次総合計画・基本構想（案）及び基本計画（案）」に対する意見等の募集について

○ 意見募集期間

平成20年10月1日（水）～平成20年10月31日（金） 1ヶ月間

○ 周知方法

5総だより9月号・10月号及びホームページでの広報
チラシ等の掲示（本庁舎、分庁舎、中央公民館及び各地区公民館）

○ 提出方法

持参、郵送、ファックス、電子メール

○ 意見提出者数及び意見件数

3名 15件

11 庁内組織における検討経過等

① 庁議及び連絡調整会議経過

庁議又は連絡調整会議	開催期日	主 な 内 容
庁 議	平成 18 年 12 月 27 日	・ 第 5 次総合計画策定の決定
庁 議	平成 19 年 4 月 3 日	・ 第 5 次総合計画策定基本方針について ・ 第 5 次総合計画スケジュールについて ・ 第 5 次総合計画策定委員会委員及び企画専門員の選任について ・ 第 5 次総合計画各種委員の公募について
連絡調整会議	平成 19 年 4 月 16 日	・ 地区まちづくり計画（案）について ・ 町民アンケートについて
連絡調整会議	平成 19 年 5 月 15 日	・ 第 5 次総合計画のイメージについて ・ 第 5 次総合計画「地区まちづくり計画」各地区担当職員の任命について
連絡調整会議	平成 19 年 9 月 18 日	・ 第 4 次総合計画検証報告書及びふるさとづくりアンケート第一次集計報告について
庁 議	平成 19 年 9 月 25 日	・ 第 4 次総合計画検証報告書及びふるさとづくりアンケート第一次集計報告について
連絡調整会議	平成 19 年 11 月 20 日	・ 若者まちづくり委員会からの提言について
連絡調整会議	平成 19 年 12 月 18 日	・ 女性まちづくり委員会からの提言について
庁 議	平成 20 年 3 月 3 日	・ まちづくりプロジェクトについて
連絡調整会議	平成 20 年 5 月 14 日	・ 第 5 次総合計画基本構想（案）について
連絡調整会議	平成 20 年 8 月 18 日	・ 第 5 次総合計画まちづくり懇談会について
連絡調整会議	平成 20 年 9 月 1 日	・ 第 5 次総合計画数値目標について ・ 第 5 次総合計画主要施策について
連絡調整会議	平成 20 年 9 月 16 日	・ 東京いわき石川会からの提言について
連絡調整会議	平成 20 年 11 月 4 日	・ 地域自治の実現に向けて（案）
庁 議	平成 20 年 11 月 25 日	・ 第 5 次総合計画基本構想（案）及び基本計画（案）の決定について
庁 議	平成 20 年 12 月 1 日	・ 第 5 次総合計画第 1 回実施計画の決定について

庁議構成員

19年度	加納武夫町長	矢内竹士副町長	高原榮征教育長
	伊藤次男総務課長	瀬谷寿一企画調整課長	芳賀正人税務課長
	遠藤秀道保健福祉課長	三瓶信一産業振興課長	小平昭信都市建設課長
	吉田宗茂歴史民俗資料館長	丹内春男会計管理者	矢内秀明議会事務局
20年度	加納武夫町長	矢内竹士副町長	高原榮征教育長
	伊藤次男総務課長	瀬谷寿一企画調整課長	芳賀真一税務課長
	遠藤秀道保健福祉課長	三瓶信一産業振興課長	熊田誠都市建設課長兼水道事業所長
	丹内眞紀教育課長	吉田宗茂歴史民俗資料館長	丹内春男会計管理者

連絡調整会議構成員

19年度	矢内竹士副町長	高原榮征教育長	伊藤次男総務課長	瀬谷寿一企画調整課長
	芳賀正人税務課長	宗形兼徳町民生活課長	遠藤秀道保健福祉課長	三瓶信一産業振興課長
	小平昭信都市建設課長	芳賀真一教育課長	吉田宗茂歴史民俗資料館長	丹内春男会計管理者
	矢内秀明議会事務局	熊田誠水道事業所長	板橋重徳主幹兼第一保育所長	荒川一夫主幹兼長生園長
	丹内眞紀主幹兼中央公民館長			
20年度	矢内竹士副町長	高原榮征教育長	伊藤次男総務課長	瀬谷寿一企画調整課長
	芳賀真一税務課長	板橋重徳町民生活課長	遠藤秀道保健福祉課長	三瓶信一産業振興課長
	熊田誠都市建設課長兼水道事業所長	丹内眞紀教育課長	吉田宗茂歴史民俗資料館長	
	丹内春男会計管理者	矢内秀明議会事務局	郷貞夫主幹兼第一保育所長	有賀英宏主幹兼長生園長
	南條武義主幹兼中央公民館長			

② 総合計画策定委員会経過

回 数	開催期日	主 な 内 容		
第1回策定委員会	平成19年4月24日	・委員長及び副委員長の選任 ・石川町第5次総合計画策定基本方針について ・石川町第5次総合計画スケジュールについて ・地区まちづくり計画について		
第2回策定委員会	平成19年9月21日	・石川町第4次総合計画の総括について ・石川町第5次総合計画アンケートの集計結果について ・石川町第5次総合計画の進捗状況について ・専門計画のフレームについて		
第3回策定委員会	平成20年5月1日	・石川町第5次総合計画基本構想(案)について		
第4回策定委員会	平成20年7月3日	・石川町第5次総合計画基本計画(案)について		
第5回策定委員会	平成20年8月29日	・石川町第5次総合計画基本構想(案)について ・石川町第5次総合計画基本計画(案)について		
第6回策定委員会	平成20年11月19日	・石川町第5次総合計画基本構想(案)について ・石川町第5次総合計画基本計画(案)について		
策定委員会委員 (平成19年度)				
委 員 長 板橋重徳主幹兼第一保育所長		副委員長 近内康町民生活課主幹		
委 員	小松弘喜総務課主幹	吉田純治税務課主幹	南條武義保健福祉課主幹	佐藤昌宣産業振興課主幹
	小林安都市建設課主幹	荒川一夫主幹兼長生園長	有賀英宏会計室室長補佐	渡辺健一教育課課長補佐
	丹内真紀主幹兼中央公民館長	小池義則水道事業所次長		
	福島県県中地方振興局地域連携室石川町担当 梁取一男企画商工部長			
(平成20年度)				
委 員 長 近内康町民生活課主幹			副委員長 南條武義主幹兼中央公民館長	
委 員	小松弘喜総務課主幹	吉田純治税務課主幹	藁谷真可保健福祉課主幹	佐藤昌宣産業振興課主幹
	小林安都市建設課主幹	有賀英宏主幹兼長生園長	渡辺健一会計室主幹	郷貞夫主幹兼第一保育所長
	矢内辰郎教育課課長補佐	小池義則水道事業所次長		
	福島県県中地方振興局地域連携室石川町担当 笠原裕二企画商工部長			

石川町第 5 次総合計画
～みんなが主役 協働と循環のまち～
平成 21（2009）年度～平成 30（2018）年度

発行 石 川 町

編集 企画調整課

〒963 - 7893 福島県石川郡石川町字下泉 1 5 3 - 2

TEL : 0247 - 26 - 2111（代表）fax : 0247 - 26 - 0360